発刊に当たり

北海道特別支援教育振興協議会長 大石 正行
(鶴居村長)

学校管理職の皆様には、各地域や各学校においてリーダーシップを発揮し、特別な教育的支援を必要とする子どもたちの教育の充実・発展のため、更には北海道の特別支援教育における課題解決に向け、様々な取組を進めていただいていることに心から敬意を表します。

さて、近年子どもの数が減少し、道内の市町村では学校の統廃合が進み、小学校と中学校がそれぞれ1校のみの自治体も多く存在するという状況です。

一方で、特別な教育的支援を必要とする子どもの数は増加し続けており、学校管理職の皆様の特別支援教育に対する関心は高いと承知しています。

こうした中、特別な教育的支援を必要とする子どもたちが地域で学び、成長し、次世代の地域を支える担い手となるよう、市町村や各学校において取り組んでいくことが期待されております。そのことが地域を活性化させるとともに、障がいのある人とない人が地域の中で共に生活する共生社会の形成につながると考えています。

その実現に向けては、障がいの有無にかかわらず、全ての子どもたちが互いにに関わり合いながら共に学び、達成感をもちながら充実した学校生活を過ごすことができるよう、学校教育の充実を図ることが重要であり、本ハンドブックの内容を学校経営の参考にし、自校の先生方の支援の充実、ひいては支援を必要とする子どもたちの笑顔につなげていただくことを願っております。

私ども北海道特別支援教育振興協議会としましても、引き続き、市町村相互の連携はもとより、国に対して適切な施策の実施を働き掛けるなどして、障がいのある子どもの自立と社会参加を見据えた各学校の取組をしっかりとサポートしてまいります。

また、市町村の保健・福祉部局等と教育委員会が連携して地域の支援体制づくりを促進するなど、幼児期から学校卒業後までの切れ目のない支援の充実に努め、障がいのある人もない人も、共に地域で生活する仲間として人権を尊重し、安心して暮らせる地域社会を目指していきたいと考えています。

結びに「小・中学校の管理職のための特別支援教育ハンドブック」を発刊するにあたり、御尽力いただきました皆様に厚くお礼を申し上げますとともに、特別な教育的支援を必要とする子どもたちへの更なる教育の充実を御祈念申し上げ、御挨拶といたします。

特別支援教育の充実に向けて

北海道教育委員会教育長 倉本博史

学校管理職の皆様には、各地域や学校において、日頃から特別な教育的支援を必要とする子どもを含む全ての子どもたちの教育に、熱意と情熱をもって御尽力いただいておりますことに、深く感謝申し上げます。

さて、本ハンドブックは、山積する様々な教育課題への対応を行う中、これまでの特別支援教育の経験の有無に関係なく、全ての学校管理職が自信をもって自校の特別支援教育を推進することをコンセプトに作成したものです。具体的には、必要な時に必要な箇所を読むことができ、かつ折に触れて読み返し、年間の学校経営の工夫・改善に資することを目的にしています。

その背景の一つに、本年3月に出された「通常の学級に在籍する障害のある児童生徒への支援の在り方に関する検討会議報告」があります。同報告では、全ての教員が、どの学級にも特別な教育的支援を必要としている児童生徒がいる可能性があることを前提に、全ての児童生徒に対し、高い学習効果が得られるよう分かりやすい授業づくりを進め、通常の学級において安全・安心に学ぶことができるよう、多様性を尊重した学級経営や集団における授業の工夫、合理的配慮の提供を行うことの重要性が示されています。

その実現に向け、学校管理職の皆様には、特別支援教育を学校運営の柱の一つとして捉え、リーダーシップを発揮して、通常の学級担任等を支えることができる校内支援体制を構築することなどが求められています。

北海道教育委員会では、令和9年度までを計画期間とした「特別支援教育に関する基本方針」に掲げた施策を確実に推進することができるよう、有識者を構成員とした会議において、管理職を含めた全ての教職員の専門性向上に向けた取組等について検討・実施しているところであり、本ハンドブックもその一環として作成したところです。

学校管理職の皆様には、「令和の日本型学校教育」を担う教師に求められる資質能力の一つに「特別な配慮や支援を必要とする子供への対応」が位置付けられたことを踏まえ、特別支援教育を一部の教職員が担当する「特別」な教育と捉えるのではなく、全ての教職員が携わり推進すべきとの認識の下、校内体制を整備する際の参考として、本ハンドブックを活用し、一人一人の可能性を引き出す教育を一層推進されますことを期待申し上げます。

結びに、本ハンドブックを作成するに当たり、御協力いただきました北海道特別支援教育振興協議会並びにアドバイザーの皆様にお礼申し上げます、御挨拶といたします。

ハンドブックの構成

1 学校経営を進める上で、知っておきたいこと

この章では、校長が特別支援教育の重要性を教職員等に伝える上で必要となる根拠や国の動向などを端的にまとめています。記載している内容をさらに深めたい時には二次元コードから関連する通知等にアクセスすることができます。

2 校内支援体制の構築に向けた5つのポイント

この章では、全ての学校に特別な教育的支援を必要とする児童生徒が在籍している可能性があることを踏まえ、特別支援教育を「特別」な教育ではなく、日常の業務と関連付けて推進するために校長が示す方向性や具体的なアイデアを記載しており、学校経営の参考にすることができます。

3 特別支援学級、通級による指導の適切な運営

この章では、ほとんどの学校に特別支援学級が設置されていることを踏まえ、特別支援学級の教育課程の基本的な内容を記載しています。また、連続性のある多様な学びの場として、設置拡充の検討が求められる通級による指導の概要等について記載しており、自校の状況の確認や取組の充実に向け参考にすることができます。

注) 文中の「障害」の表記について、引用については原文のままとしています。

「子供」の表記について、全て「子ども」に統一しています。

目次

巻頭言

1 学校経営を進める上で、知っておきたいこと

- (1) 特別な教育的支援を必要とする児童生徒が増えている理由 . . . 1
- (2) 様々な障がいの状態（程度）の児童生徒が小・中学校に在籍している理由 . . . 2
- (3) 学校が良好な関係を築く上で保護者の願いを受け止める必要がある理由 . . . 3
- (4) 二つの計画が努力義務になった理由 . . . 4

2 校内支援体制の構築に向けた5つのポイント

- 「校内支援体制を整える5つのポイントと学校経営における1年間の流れ」 . . . 7
- (1) 学校経営方針に基づき、特別支援教育を推進する . . . 8
- (2) 通常の学級に在籍する児童生徒の多様な実態を幅広く捉え、授業改善や環境の調整に向けた取組につなげる . . . 10
- (3) 教職員の特別支援教育に関する専門性向上を進める . . . 12
- (4) 児童生徒の「学びの場」の提供と柔軟な見直し . . . 14
- (5) 個別の教育支援計画と個別の指導計画の作成・活用を意味付ける . . . 16

3 特別支援学級、通級による指導の適切な運営

- (1) 特別支援学級の適切な運営 . . . 19
- (2) 特別支援学級の教育課程の編成、実施 . . . 21
 - 自校の特別支援学級の教育課程を確認する
 - 自立活動の指導が個別の指導計画に基づいているか確認する
 - 必要な指導体制を整え、交流及び共同学習を実施しているか確認する
- (3) 通級による指導の意義と開設 . . . 24
- (4) 通級による指導を効果的に行うための校内体制の構築 . . . 25
 - 児童生徒を真ん中にして通級による指導の校内体制を確認する

参考資料 . . . 26

アドバイザー・編集・執筆者

あとがき